

## 1 公害関連の環境学習プログラム

### 公害に向き合う



なぜ新潟水俣病が発生するに至ったのか。被害者の方はこれまで何に苦しんできたのか。その頃の流域の暮らしや産業はどう関係していたのか。様々な視点から歴史の光と影の1コマに向き合い考えを深めていくプログラムの数々です。紙芝居や映像によるユニークな座学を体験後、専門ガイドなどが実際に現地を巡って案内します。

## 2 流域の産業・自然体験プログラム

### 公害を乗り越える



公害を経験した流域だからこそ、全国に向けて胸を張って発信できる独自の環境取組や地域づくりが始まっています。そうした中から、上流域に広がるブナ原生林など豊かで貴重な自然資源や、中流域独特の風土が生み出した安田瓦や酪農などの地場産業の取組などを、地元ガイドの案内で体験できるプログラムの数々です。

## 3 流域の貴重な郷土料理

阿賀野川流域独特の風土と文化が生み出した、珍しい伝統食や郷土料理。流域再生の過程で発見した、そうした食の数々を1つのお膳の中に集めた「豪華な粗食」を提供します。



豪華な粗食

※写真は一例です。「豪華な粗食」は一般社団法人あがのがわ環境学習舎の登録商標です。

あがのがわ  
環境学習  
ツアー

特集  
1

あがのがわ 環境学習 ツアー

光と影に向き合う  
“ほんものの体験”、はじまる。

阿賀野川流域がかつて体験してきた光と影の歴史から  
これからの未来に生かせる教訓を伝えるために

特集レポート!

阿賀野川 最後の帆船(昭和25年・五泉笹堀) 撮影木村清氏・提供木村仁巳氏

かつての阿賀野川、公害の発生…

かつて阿賀野川では帆かけ舟が多数往来し、大河の恵みを楽しんだ地場産業や大企業が栄え、潤いのある暮らしが営まれていました。

そんな流域社会も、昭和の高度経済成長を迎えて繁栄を続けた後、新潟水俣病が表面化した昭和40年代を境に、時代の曲がり角を迎えました。失われゆく原風景、徐々に疲弊する地域、長引く新潟水俣病問題…

2つの流域再生の取組が始動して

やがて、新潟水俣病の公式確認から40年以上経過した平成19年、まずは流域が公害と向き合うきっかけを生み出すために、新潟県が主導して阿賀野川流域の地域再生の取組「阿賀野川えとこたプロジェクト」が本格的に動き出しました。

その動きは民間に受け継がれ、一般社団法人あがのがわ環境学習舎が誕生。今では、流域の観光・地場産業・環境NPO、まちづくり団体などを巻き込み「阿賀野川エコミュージアム構想」を掲げて公害の経験乗り越えつつあります。

「阿賀の宝もん」体験を全国の方々に

そして、光と影の歴史に向き合い流域再

## 流域再生の始まりとこれから

H19 ~

阿賀野川  
えとこた  
プロジェクト

H23 ~

阿賀野川  
エコ  
ミュージアム

これから

あがのがわ  
環境学習  
ツアー

次ページでツアーを構成する3本の柱を紹介!

生に取り組み中から、「人と人の絆」「人と自然の関係」を紡ぎ直す知恵を学べたあがのがわ環境学習舎では、そんな自慢すべき「阿賀の宝もん」を全国の方々にもお伝えしたいと考え、「あがのがわ環境学習ツアー」を始めました。